



「ちよつと！着替え中なんだから
声ぐらい掛けなさい！」

ギョッ！！

むちっ♡

「ごめんよママ…」

ママのおちんぽみるくの
味が恋しくてまた
いっぱい飲みたく
なっちゃったんだ…」

「えー…？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！
自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」

むちっ♡

「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがいいよー！
ママが必死にセズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよー！」



「あっーママ勃起してるよー！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」

「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」

「ああっーママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぶんぶんしてきたよー！やっぱり昨日の量じゃシ〇り足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもんー！！」

（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）



「まったく…今回だけよ…」

「うわああ！」

ママすごいエロい身体
してるよお！おちんぽみるく
吐き出させるための身体してる
よおー！」

「ごうっ！おちんぽが喜ぶようなこと言っただけじゃありませんー！
下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよー？」

「ママの方がノリノリじゃないかあ…」

ぼろんっ♡

♡ぶるん♡



「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」

「うん！思う存分だしてねー！」

「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからねー！」

アハッ

「お願い！
あと片付けはしっかり
するから気にしないで
いいよー！」

ブルッ

ぷるん

ぷるん

「あんたもおちよこでもお箸入れ
でも持ってきておちんぼシゴきなさい♡
オスの惨めなちんぽみながらシゴると優越感で
いっぱい濃いの出せるから♡♡♡」



「あらっ？あんたもジョッキ？こんなにやぐでもつめて
オナホにでもするの？♡」

「うう…でもこれしかなかったから…
しょうがなく…」

「私はあんたのそういう
負けず嫌いなところ
嫌いじゃないわよ♡」

「ほらほら♡もっと必死に
シコシコしなさい♡私が一回射精
する度にあんたは10回ぐらい射精
し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」



「♡♡♡ONE!!...♡♡♡♡♡...♡♡♡あ...あ...あ...」

「おう♡やつぱり
しょぼいオスチシポの
射精みながらする
アクメは格別だわあ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」

「♡...♡...♡...♡」

Fairy

トキ

ト
レ
ビ
ユ
ン

かゝ

カッ

「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」

「ママア…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよお…」

もわあ…



ニャ
ニャ

「弱気より先にザーメン出さない♡

まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は

射精さないなんてわがまま、

通ると思っけないわよね?♡」

「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」

「ひい…僕のおちんちん壊れちゃうよお…♡」

とろ…

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

「ちよつと！着替え中なんだから
声ぐらい掛けなさい！」

ギョッ！！

「ごめんよママ…
ママのおちんぽみるくの
味が恋しくてまた
いっぱい飲みたく
なっちゃったんだ…」

「えー…？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！
自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」

むちっ♡

「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがいいよー！
ママが必死にセズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよー！」

むちっ♡



「あっーママ勃起してるよー！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」

「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」

「ああっーママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぶんぶんしてきたよー！やっぱり昨日の量じゃシ〇り足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもんー！！」

（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）



「まったく…今回だけよ…」

「うわああ！」

ママすごいエロい身体
してるよお！おちんぽみるく
吐き出させるための身体してる
よおー！」

「ごうっ！おちんぽが喜ぶようなこと言っただけじゃありませんー！
下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよー？」

「ママの方がノリノリじゃないかあ…」

ぼろんっ♡

♡ぶるん♡



「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」

「うん！思う存分だしてねー！」

「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからねー！」

アハッ

「お願い！
あと片付けはしっかり
するから気にしなくて
いいよー！」

ブルッ

ぷるん

ぷるん

「あんたもおちよこでもお箸入れ
でも持ってきておちんぼシゴきなさい♡
オスの惨めなちんぽみながらシゴると優越感で
いっぱい濃いの出せるから♡♡♡」



「あらっ？あんたもジョッキ？こんなにやくでもつめて
オナホにでもするの？♡」

「うう…でもこれしかなかったから…
しょうがなく…」

「私はあんたのそういう
負けず嫌いなところ
嫌いじゃないわよ♡」

「ほらほら♡もっと必死に
シコシコしなさい♡私が一回射精
する度にあんたは10回ぐらい射精
し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」



「♡♡♡ONE!!...♡♡♡♡♡...♡♡♡あ...あ...あ...」

「お、♡やっぱり
しょぼいオスチシポの
射精みながらする
アクメは格別だわあ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」

「♡...♡...♡...♡...♡...♡...」

✦

キョウ

カッ

ガッ

「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」

「ママァ…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよお…」

もわぁ…



ニャ
ニャ

「弱気より先にザーメン出さない♡

まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は

射精さないなんてわがまま、

通ると思っけないわよね?♡」

「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」

「ひい…僕のおちんちん壊れちゃうよお…♡」

とろ…

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

「ちよつと！着替え中なんだから
声ぐらい掛けなさい！」

ギョッ！！

むちっ♡

「ごめんよママ…」

ママのおちんぽみるくの
味が恋しくてまた
いっぱい飲みたく
なっちゃったんだ…」

「えー…？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！
自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」

むちっ♡

「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがいいよー！
ママが必死にセズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよー！」



「あっーママ勃起してるよー！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」

「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」

「ああっーママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぷんぷんしてきたよー！やっぱり昨日の量じゃシ〇り足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもんー！！」

（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）



ギチッ

パンツ

トロ…

ギチッ

「まったく…今回だけよ…」

「うわああ！」

ママすごいエロい身体
してるよお！おちんぽみるく
吐き出させるための身体してる
よおー！」

「うらっ！おちんぽが喜ぶようなこと言っただけじゃありませんー！
下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよー？」

「ママの方がノリノリじゃないかあ…」

ぼろんっ♡

♡ぶるん♡



「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」

「うん！思う存分だしてねー！」

「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからねー！」

アハッ

「お願い！
あと片付けはしっかり
するから気にしないで
いいよー！」

ブルッ

ぷるん

ぷるん

「あんたもおちよこでもお箸入れ
でも持ってきておちんぼシゴきなさい♡
オスの惨めなちんぽみながらシゴると優越感で
いっぱい濃いの出せるから♡♡♡」



「あらっ？あんたもジョッキ？こんなにやくでもつめて
オナホにでもするの？♡」

「うう…でもこれしかなかったから…
しょうがなく…」

「私はあんたのそういう
負けず嫌いなところ
嫌いじゃないわよ♡」

「ほらほら♡もっと必死に
シコシコしなさい♡私が一回射精
する度にあんたは10回ぐらい射精
し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」



「♡♡♡ONE!!...♡♡♡あ...♡♡♡あ」

「おう♡やっぱり
しょぼいオスチシポの
射精みながらする
アクメは格別だわあ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」

「♡...♡...♡」

★

オムツ

A hand is shown squeezing a red, segmented fruit (like a watermelon or tomato) into a clear glass filled with ice cubes and several sticks (possibly sticks of candy or fruit). Large, stylized orange sound effects, 'ド' (Do) and 'ジュ' (Ju), are overlaid on the image, suggesting a crushing or squeezing action.

カッ

ガク

「ほらほら♡数回の射精でもうこんなにパンパンになっちゃったわ♡
あんたも私の息子なら
これぐらいいつでも
射精せるようにしておき
なさい♡♡♡」

「ママア…♡僕もうおちんぽ
みるく出せないよお…」

もわあ…



ニャ
ニャ

「弱気より先にザーメン出さない♡

まさか人に厚かましくせがんでおいて自分は

射精さないなんてわがまま、

通ると思っけないわよね?♡」

「早く射精しないとこのザーメンジョッキ先に飲んじゃうわよ♡」

「ひい…僕のおちんちん壊れちゃうよお…♡」

とろ…

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

「ちよつと！着替え中なんだから
声ぐらい掛けなさい！」

ギョッ！！

むちっ♡

「ごめんよママ…」

ママのおちんぽみるくの
味が恋しくてまた
いっぱい飲みたく
なっちゃったんだ…」

「えー…？またなの！？今週の分は昨日飲ませて上げたでしょ！
自分のザーメンをペットボトルの蓋にでも注いで飲んだらどう！？」

むちっ♡

「ママのおちんぽみるくじゃないと飲みがいがないよー！
ママが必死にセズリこいてひり出したおちんぽみるくが飲みたいんだよー！」



「あっーママ勃起してるよー！ママのおちんぽがパンツを突き破りそうだよ！」

「あんたがじろじろいやらしい目で見てくるからでしょ…♡」

「ああっーママの雄臭いふたなりちんぽの臭いがぶんぶんしてきたよー！やっぱり昨日の量じゃシ〇り足りなかったんだ！いつもよりせーしが薄かったもんー！！」

（まったく…いつになったらザーメン離れできるのかしらうちの息子は…）



「まったく…今回だけよ…」

「うわああ！」

ママすごいエロい身体
してるよお！おちんぽみるく
吐き出させるための身体してる
よおー！」

「ごうっ！おちんぽが喜ぶようなこと言っただけじゃありませんー！
下のお口から直接飲ませてあげてもいいのよー？」

「ママの方がノリノリじゃないかあ…」

ぼろんっ♡

♡ぶるん♡



「じゃあこの中にザーメンぶちまければいいのね？」

「うん！思う存分だしてねー！」

「お腹壊しても知らないわよ？ママはもう制御できませんからねー！」

アハッ

「お願い！
あと片付けはしっかり
するから気にしなくて
いいよー！」

ブルッ

ぷるん

ぷるん

「あんたもおちよこでもお箸入れ
でも持ってきておちんぼシゴきなさい♡
オスの惨めなちんぽみながらシゴると優越感で
いっぱい濃いの出せるから♡♡♡」



「あらっ？あんたもジョッキ？こんなにやぐでもつめて
オナホにでもするの？♡」

「うう…でもこれしかなかったから…
しょうがなく…」

「私はあんたのそういう
負けず嫌いなところ
嫌いじゃないわよ♡」

「ほらほら♡もっと必死に
シコシコしなさい♡私が一回射精
する度にあんたは10回ぐらい射精
し続けなきゃ到底敵わないんだから…♡」



「♡♡♡ONE!!...♡♡♡♡♡...♡♡♡あ...あ...あ...」

「おう♡やっぱり
しょぼいオスチシポの
射精みながらする
アクメは格別だわあ…♡
しかも実の息子…♡ちんぽは
お父さん似ね…♡」

「♡...♡...♡」

キッズ

寺

カク

カク























































